

題材カード

1. 学年 第2学年

2. 「学習の方向性」から題材へ

造形的な見方・考え方を働かせ、資質・能力を育む「学習の方向性」

活動したことや表現したものの面白さや楽しさなどを感じ取ったり考えたりし、見方や感じ方を広げる。

B鑑賞(1)ア

自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じ方が分かり、自分なりのイメージをもつ。

〔共通事項〕(1)アイ

題材名

いろの 見えかた むげん大

～いろいろならべて かさねて おきにいりの見えたかを みんなにしょうかいしよう～

題材目標

○四角い透明色紙を、並べたり、重ねたりしながら楽しい見え方を見付けるときの感覚や行為を通して、重ねる範囲を少しずつ変えることで生まれる色や形の変化や、色を重ねることで生まれる新しい色や形などに気付くことができるようにする。

○いろいろな色や形などを基に、自分のイメージをもちながら、透明色紙や透明色紙でできる形や色などの造形的な面白さや楽しさについて、感じ取ったり考えたりするとともに、ICT機器を活用することで友達のお気に入りの見え方の楽しさや面白さを感じ取ったり考えたりすることで、自分の見方や考え方を広げるようにする。

○楽しく透明色紙を使って、楽しい見え方を見付ける学習活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとする態度を養うようにする。

題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 四角い透明色紙を、並べたり、重ねたりしながら楽しい見え方を見付けるときの感覚や行為を通して、いろいろな色や形などに気付いている。 <p>(知識)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を活用することで友達のお気に入りの見え方の楽しさや面白さを感じ取り、友達の表現のよさについて考えている。 <p>(思・判・表)</p> <ul style="list-style-type: none"> 透明色紙や透明色紙でできる形や色などの造形的な面白さや楽しさについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や考え方を広げている。 <p>(鑑賞)</p>	<ul style="list-style-type: none"> つくりだす喜びを味わい、楽しく透明色紙を使って、並べたり、重ねたりしながら楽しい見え方を見付ける学習活動に取り組もうとしている。 <p>(主体的)</p>

3. テーマに迫るために

研究主題
感性豊かに生きる力をはぐくむ図画工作科学習の創造 ～感じる つくる 考える 子どもの姿を求めて～
部会テーマ（低学年部会）
思いのままに つくることを楽しむ子どもの姿を目指して

○出あいの工夫

- ・透明色紙を10枚重ねた状態で子どもに見せ、何色に見えるか尋ねる。そこから1枚ずつ抜き取りながら、透明色紙を抜く度に色が変わっていくことを見せたい。抜き取った透明色紙はホワイトボードに貼っていき、何色があったのか子ども達と確かめながら題材に対する興味を引き出していく。

○場の設定の工夫

- ・思いのままにつくることを楽しめるように、一人で活動する時間を十分に確保したい。そのため、一人10色程度の同じ大きさの透明色紙を渡す。透明色紙の色が映えるように、机は白い紙で覆うようにする。一人で、机上で並べたり、重ねたりしたあとに、グループで活動できるように教室の配置図を予め示しておく。
- ・透明色紙は、大きさの違うものを3つ用意し、イメージに合うものを活動中に選べるようにする。
- ・自分のイメージをもって、つくり続けられるように、一人一台のタブレットを準備しておき、お気に入りの見え方ができる度に写真に撮り、ロイロノートで提出できるようにする。
- ・児童の写真を教師が全体に示せるように、テレビに映し出すようにする。

○共感的支援の工夫

- ・子どもの発言に耳を傾けながら、色の重なりや形の変化について気づいたことに対する発言を認めていきたい。子どものもつイメージに寄り添いながら、助言するのではなく、一緒に並べたり、重ねたりすることで、子ども自身が面白い見え方を発見できるようにしたい。
- ・どんな見え方も面白いことを伝えながら、一つのことに固執しすぎないように活動を変化できるように声をかけていく。

○小中一貫の視点

- ・透明色紙を並べたり、重ねたりする活動を通して、色や形が変わることを知り、混色の面白さに気付くことで、今後の絵具を使う活動への意欲を高め、自分のイメージを広げていけるようにしたい。

4. 検討したいこと

①題材名や副題について

子どもがワクワクする題材名を考えたい。

②出会いの工夫や場の設定について

透明色紙を大きさの違うものや10色用意することが適切なのか。また、コロナ禍ではグループ活動を制限せざるおえないため、どこまで友達と活動できるか。

③タブレットの活用の仕方について

活動に夢中になると、写真を撮らない児童もでてくる。確実に写真を撮るために、時間で活動を区切った方がいいのか、どのタイミングで写真を撮らせて、共有できるようにするか検討したい。